



平成28年6月20日

各位

会社名 株式会社 スマートバリュー
代表者名 代表取締役社長 渋谷 順
(コード番号: 9417)
問い合わせ先 取締役経営管理管掌 田中 健作
TEL. 06-6448-1711

堺市教育委員会において「ネットいじめ防止プログラム」を実施します ～スマートフォン・携帯電話等をかしこく使うための取り組みのご紹介～

株式会社スマートバリュー（本社：大阪市西区、代表取締役社長：渋谷 順、以下、当社）は、堺市教育委員会から「平成28年度 ネットいじめ防止プログラム実施業務」を受託、堺市立の小学4年生と中学1年生（全136校／15,112人に対し、合計289回の授業）とその保護者を対象に、情報モラル教育「ネットいじめ防止プログラム」を実施いたしますので、お知らせします。（注）

昨今「SNSサイト」や「メッセージやチャット等を用いたコミュニティーサイト」など、インターネットを用いてコミュニケーションを行うサイトやサービスが数多くあります。

これらのサイトは、その利便性の裏では、いじめや誹謗・中傷の温床になっているばかりでなく、子どもたちが知らないうちに、事件の加害者にも被害者にもなる事件が数多く報告されています。

堺市教育委員会においては、2008年度から、情報モラルの向上を目的に、子どもたちがスマートフォンや携帯電話を正しく活用できるよう、SNSやメール、インターネットの正しい利用方法を学び、ネットいじめをなくすための取り組みとして、市立中学校1年生全員を対象に「ネットいじめ防止」授業の実施に取り組んでこられました。

また、SNSを介したネットいじめ現象が小学校高学年で報告されていることから、2015年度からは、対象を市立小学校4年生全員にも拡げておられます。

このような取組は全国的にも例がなく、事業開始から8年目になる今年度も、各方面から多くの注目が集まっています。

当社では、堺市を中心に6店舗の地域密着型のモバイルショップを運営している実績と、多くの自治体へのクラウドサービスの提供実績などを活かし、堺市教育委員会と協働して、「ネットいじめ防止」授業のプログラムを作成し、市立の全小中学校にて授業を実施いたします。

本事業を通じて、当社は、地域や子どもたちのネットワーク社会の適切な理解と参加を支援し、実態的に地域のお役に立つモバイルショップの運営及び、子育て支援などの自治体向けのクラウドサービスの提案へと活かしてまいります。

【堺市教育委員会／ネットいじめ防止プログラムの概要】

1. 市立の小学4年生と中学1年生全員を対象にした「ネットいじめ防止」授業の実施
2. 市立の小学4年生と中学1年生全員及びその保護者を対象にしたアンケートによる意識調査と分析
3. ネットいじめ防止プログラムWEBサイトの運用
URL/<http://nib.sakai.ed.jp/>
4. 保護者への啓発を目的とした「ネットいじめ防止プログラムだより」の発行



（イメージキャラクター：スマホホン）

【昨年度の授業の様子】



【堺市教育委員会ネットいじめ防止プログラムだより（昨年度版）】

ネットいじめ防止プログラムだより

堺市教育委員会 学校教育課 No.3 (全5期)

■子どもたちのSNSに関する現状

「ネットいじめ防止プログラムだより No.2」で触れた、ネットいじめにつながる恐れのあるインターネット上のサービスとして、「SNS」と呼ばれるコミュニケーション型のサービスがあります。

【SNSとは？】

SNSは、コミュニケーション型のサービスで、メッセージのやりとりだけでなく自分の紹介や写真を公開することもできるようになっており、スマートフォンやタブレット端末、児童生徒の利用も増えていきます。SNSの中には、登録を必要とし、特定の仲間だけが参加できるものから、誰でも参加することができるものまで様々なものがあります。

【書き込みの内容は？】

SNSには、顔写真・名前・住所・学校・携帯番号・メールアドレスなどの個人情報を載せることが可能で、目的は好みや趣味など気合の合うもの、交友関係、友人を誘ったり、友達とつながりたい、日記を書いたり、メッセージを書き込んだりする機能もあり、コミュニケーションのために使われています。

【SNSを介したトラブルの例】

ある生徒がSNSに「2年でキモいやつは？」と書き込むと、他の生徒が実名やイニシャルで回答を書き込んでいました。また、「3年のA子（実名）は援助交際をしている」といった、誹謗中傷の書き込みもありました。虚構にされた生徒は情報の発信元がわからないため、周囲の人を信じていることができず、気の休まる時間や場所もなく、不登校や転校などに追い込まれるなど深刻な事態も起きています。対応策として、被害者となった場合に一人で抱え込まないで誰かに相談することが重要です。

■ネットいじめ防止授業の内容

【SNSでのやりとりで起きた誤解】

右のスクリーンは、「AさんとBさんのやりとり」です。Bさんの言葉がきっかけで二人の関係が悪くなりました。関係が悪くなったきっかけとなる言葉を考えてみました。

【相手に対する思いやりの気持ち】

SNSやメールでは、直接話すこととは異なり、「声の雰囲気」や「相手の表情」が伝わってきません。ここでは、なにげなく言ったつもりや言葉が、「悪意を持った言葉」として受け取られてしまいました。このような事にならないために、文字だけのやり取りの場合では、いつも以上に相手の立場に立ち、相手に対する「思いやり」の気持ちを持って、言葉を選んでいかなければならないことを学習しました。中学校では、どのような言葉だったからトラブルにならずに済んだのかを考え、体験型SNS〜実際に入力する「体験学習」を行いました。自分の気持ちを伝えることが難しいスマートフォンや携帯電話を使ったSNSやメールの書き込みには、相手に対する思いやりが大切です。

【既読無視を責めない】

LINEなどのメールアプリは、自分が送信したものを相手に届くと、「既読」というマークが付くようになってきました。この「既読マーク」がきっかけとなったトラブルがよく起きています。既読しているのにすぐに返事を返さないことで嫌がらせを受けたり、ニュースで紹介されるような大きな事件にも発展しています。「既読無視をされた」と責めることは、いじめの始まりであり、既読無視をきっかけに相手を非難する人は、思いやりがないと言えることを学習しました。

■保護者として家庭でできること

お子さまがスマートフォンや携帯電話などを、いつ、どのように使っているかをご存知ですか？

まずは、知ることが大切です。「うちの子にかぎって・・・」「子どもを信用しているから・・・」と子ども任せにすることなく、ご家庭において「使う時間」や「使い方・判断の仕方」などを決めておくことが大切です。

メッセージを送信することに夢中になると、寝不足や体調不良になり、勉強に集中できず、成績はどんどん下がります。相手から来たメッセージは気になりますが、すぐに返事をしたら、友達が認めてくれて、自分の立場が良くなる。」という考えでメッセージのやり取りを行なうと、いつまでもメッセージを止める事ができません。お子さまとインターネットの「モラル」や「マナー」について、十分に話し合い、家庭でのルールづくりが重要です。ぜひ、家庭内での話し合いの機会と定期的なルールの確認をお願いします。

（注）学校数、人数、授業の回数等の数字は、平成28年5月1日時点のものです。

以上

【お問い合わせ先】経営管理Division 戦略IRグループ
TEL: 06-6448-1711